



## 読書の感動を伝えるイベント開催

秋田県教育庁生涯学習課生涯学習・読書推進班 指導主事 舘岡江里

秋田県教育委員会は、県民が生涯にわたって読書に親しみ、豊かな人生を歩むことができるよう、読書環境の整備・充実を図っています。特に、読書は習慣付けが重要であることから、幼少期からの読書活動の推進を重点に取り組んでいます。

今年度からスタートした「幼少期からの読書推進フロンティア事業」は、子どもたちの年代に応じた読書イベントを開催し、読書に親しむ気運の醸成を図るものです。幼児から中学生を対象にした「読書絵はがきコンクール」と、高校生・大学生による「ビブリオバトル」を実施しました。

本の魅力を再発見する機会となったこの二つのイベントについてご紹介します。

## 読書絵はがきコンクール

読書や読み聞かせによって得た感動を、家族や友達に伝える読書絵はがきを募集しました。「秋田県読書フェスタ」期間中、337点の応募作品を全て秋田県児童会館の図書室に展示したところ、たくさんの親子連れが訪れ、「このお話知ってる」「上手だね」などの会話を交わしながら見ていました。また、参加した学校の先生からは、「作品を見せ合ったり本を読み直したりしたため、図書室の利用が増えました」との声がありました。



## ビブリオバトル2014高校生・大学生大会

ビブリオバトルとは、バトルと呼ばれる発表者が、それぞれおすすめの本の魅力を5分間で紹介し合い、参加者全員で、「一番読みたくなった本」(チャンプ本)を投票で決める知的書評ゲームです。

今年度は、高校生大会を大館市立中央図書館、あきた文学資料館、美郷町学友館の3会場で、大学生大会を秋田大学附属図書館で行いました。アンケートによると、9割近い人が「今回初めて知った」と回答していましたが、参加してみると、「おもしろかった」「本の魅力がよく伝わってきた」「すごく本が読みたくなった」「もっとやってほしい」「自分も紹介したくなった」と感じたようでした。

また、40代から60代の方々からは、次のような激励メッセージもいただきました。

- ・このような高校生の姿を見ると、とても感動します。秋田はこういう高校生がいてくれるから大丈夫。いろいろな高校でこのイベントが広がっていくことを期待しています。
- ・本離れと言われている学生たちですが、今日この場でしっかり読書しているのが分かり、少し安心しました。このまま本好きでいてほしいです。
- ・大学生各自のプレゼン力がすばらしかったです。今後企業や将来の道で、必要なプレゼン力だと思います。がんばってください。



## 各大会で決定したチャンプ本

高校県北：『オー！ファーザー』伊坂幸太郎  
 高校県央：『手紙』東野圭吾  
 高校県南：『超訳般若心経』境野勝悟  
 大 学：『いのちをいただく』  
 内田美智子・諸江和美・佐藤剛史

# 『平成26年度東北地区社会教育研究大会・第59回東北地区公民館大会』 兼『平成26年度秋田県社会教育研究大会・第64回秋田県公民館大会』

11月13・14日

秋田市

秋田市中央公民館 副館長 加藤秀尚

今年は、第29回国民文化祭あきた2014の開催などにより、全国や県内の芸術文化・伝統芸能関係者が集い、全県が国文祭一色に染まったなかで、6年に一度の東北大会開催に向け準備を進めてきました。

今年度は、社会教育の充実方策を探り、時代に即応した公民館活動の充実と発展を図るため、研究主題を「社会教育が未来を創る～ネットワークの再考～」として、東北各県から多くの関係者が集い新たな視点に立って充実と発展につなげられる大会となるよう努めてきました。

## 記念講演 「ふるさとを語ろう～地域のこと 仲間のこと 子どものこと～」

講師：俳優 柳葉敏郎氏／フリーアナウンサー 石垣政和氏

大仙市に住みながら活躍されている俳優・柳葉敏郎氏と、羽後町出身のフリーアナウンサー・石垣政和氏による講演会を行いました。石垣氏の質問に柳葉氏が答える形でトークが進みました。幼少時代から高校卒業後役者を志した時のエピソード、大仙市に住みながら仕事をすることについて「もともと家庭を持つようになったら一緒に田舎で暮らしたいと思っていた」こと。秋田で暮らす一番の理由は「人です、こんな僕を育ててくれた町で、子どもを育てたかった」と地域への愛着、感謝の気持ちとつながりの深さを感じる、心暖まる講演会となりました。



## 分科会 実り多かった5分科会での事例発表と質疑応答

14日は各分科会が開催されました。第1分科会「元気な地域づくりにつなげる社会教育委員の役割」、第2分科会「輝く青少年の育成と社会教育委員の役割」、第3分科会「地域と学校との連携」、第4分科会「公民館と地域住民とのネットワーク」、第5分科会「人づくり・地域づくりと公民館」で、事例発表者は、秋田県内から5名、東北5県から各1名がそれぞれの実践事例についての発表を行い、助言者から課題解決につながるアドバイスや参加者からの質疑応答など活発な意見交換が行われ、事例発表者と参加者にとって実り多い分科会となりました。



分科会終了後、今大会の「大会宣言」が各分科会会場で承認採択され、全日程を終了することができました。大会にご支援、ご協力いただきました県内外の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

## 『秋田県社会教育主事連絡協議会研修会』

9月5日 小坂町

秋田県教育庁北教育事務所山本出張所 社会教育主事 佐藤充



秋田県社会教育主事連絡協議会は、会員相互の提携を密にして専門性の確立を図り、社会教育の振興に努めることを目的として運営されています。今年度の秋田県社会教育主事等研修会は、9月5日(金)に小坂町交流センター「セパーム」を会場に行われました。当日は、県内各地から社会教育主事や関係者が集まり研修を深めました。研修の合間には、「セパーム」に併設になっている小坂小中学校内の地域交流拠点「バレット広場」で、学校支援ボランティアと子どもたちが、休み時間に交流する様子を見学しました。

### ① 研修1 「地域のきずなと活力を生みだすしかけ」

講師：青森県総合社会教育センター育成研修課 副参事(兼)課長 田中洋一 氏

商業圏30万人規模の青森、弘前、八戸の3極があり、歴史的に6つの特色ある地域で構成されている青森県で、地域のつながり創造人育成事業についてのお話を伺いました。地域に対する想いのある若者の羽ばたくきっかけについて考えるよい機会になりました。

### ② 研修2 グループワーク「地域のきずなと活力を生みだすしかけを創る」

ファシリテーター：青森県総合社会教育センター育成研修課 副参事(兼)課長 田中洋一 氏

午前のお話を受けて、秋田県内ではどうするかを考えました。グループ内で、地域をどの範囲に設定するのか、どんな状況を改善するのか、対象をどの程度にするのかなどを話し合って発表しました。それぞれの市町村の状況を確認し合い、情報交換をする機会にもなりました。



### ③ 研修3 視察「小坂鉄道レールパーク・康楽館・小坂鉱山事務所」

小坂町案内人協議会の高橋竹見氏によるガイドで、(旧)小坂鉄道の線路と設備を利用した《観て・学んで・体験できる》レール遊びの複合施設「小坂鉄道レールパーク」、明治43年誕生の芝居小屋「康楽館」、かつて鉱産額で全国一位にまでなつめた小坂鉱山の全盛時代の生きた文化遺産である「小坂鉱山事務所」の3施設を見学し、小坂町の特色ある景観を楽しみました。

あきたの生涯学習—まなびピア21— 第49号(平成27年2月1日)

編集・発行／秋田県生涯学習センター 〒010-0955 秋田市山王中島町1-1

(TEL) 018-865-1171 (FAX) 018-824-1799 (E-mail) sgscen002@mail2.pref.akita.jp

まなびサポート秋田  
<http://lifelong.akita-kenmin.jp/>

秋田県生涯学習センターWebサイト  
<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>

行動人Webサイト  
<http://lifelong.akita-kenmin/koudoubito/>

